

## 投票環境の向上方策等に関する研究会（第1回）議事要旨

### 1 日時

平成29年12月26日（火）10:00～12:00

### 2 場所

総務省7階 省議室

### 3 出席者

（委員）磯部座長、秋野委員、石川委員、伊藤委員、大橋委員、  
小尾委員、河村委員、小島委員、品田委員、清水委員、  
手塚委員、林委員、廣井委員、山崎委員、湯淺委員

（総務省）野田大臣、小倉政務官、小林政務官、  
大泉選挙部長、森選挙課長、照井管理課長

### 4 議事要旨

#### （1）趣旨等説明

野田大臣、両政務官からの挨拶のほか、事務局より、本研究会の趣旨、今後の進め方及び制度の現状について説明を行った。

#### （2）意見交換

制度の現状について事務局より説明を行った後、本研究会で検討すべき項目について、委員間で自由に意見交換を行った。主な発言内容は以下のとおり。

#### <投票しにくい状況にある選挙人の投票環境向上>

- ・代理投票については、仕切り等がない状態で投票する場合があるが、投票の秘密の観点から、事務従事者以外の者に投票先を知られることのないよう、丁寧な対応ができないか。
- ・視覚障害者に対する選挙公報の情報提供については、点字及び音声による選挙のお知らせ版の配布が行われているが、全ての人に行き渡っていない状況もあることから、さらなる情報提供の充実ができないか。
- ・インターネット投票については、本人確認、投票の匿名性・投票の秘密、投票の強要のおそれの排除といった論点があるのではないか。また、セキュリティの確保について、技術だけでは完全でない場合に、その部分は運用で担保し、全体としてセキュリティが確保されることが前提だと思う。

- ・ 学生の不在者投票については、選挙人名簿そのもののあり方も問題となるのではないか。住民基本台帳と選挙人名簿とを一致させるということも考えられる。
- ・ 投票の権利はあるものの、その行使のためのコストが高いなどの理由により、なかなか行使できていない人について、どう実効的に行使できるかを考えていくことは、憲法の観点からも非常に重要である。

#### <選挙における選挙人の負担軽減、管理執行の合理化>

- ・ マイナンバーカードについて、その普及状況を踏まえつつ、本人確認等の選挙事務への活用が検討できないか。
- ・ マイナンバーカードを活用していくことは、社会的コストを下げることに役立つのではないか。投票原則のうち、本人による投票と一人一票主義は、唯一無二の特定ができるマイナンバーカードと相通じることがある一方、投票の匿名性・投票の秘密はマイナンバーカードのこれらの性格と一見矛盾するように見える。これをどう調整できるか、検討できると良いのではないか。
- ・ 期日前投票をする者が増加傾向にあることから、選挙公報をより迅速に配布し、早期の情報提供ができないか。
- ・ 共通投票所の取組を進めるためにも、無線通信に関するセキュリティポリシーについて議論ができないか。
- ・ 離島の投票箱の送致については、今回の衆議院選挙で注目されたが、常々、輸送方法が航路のみである離島の対応については苦慮している。
- ・ 今回の衆議院選挙で課題となった期日前投票所の混雑対策については、過去の選挙で、既に混雑を経験していた自治体や投票所は工夫がされており、投票人が増えても対応できていたと思うが、そうでなかったところは、対応が困難であったのではないか。

#### <全体に共通する事項>

- ・ 投票環境向上方策は有権者にとって良いことであるが、一方で選挙管理委員会の事務負担や人員の確保などが課題になると思われ、この点にも考慮しながら検討する必要があるのではないか。
- ・ 取組に要するコストや選挙の管理執行を確実に行うという観点も重要ではないか。